

総合建設業株式会社崎山組(橿原市南八木町)が、大正9(1920)年の創業以来100年の歴史を刻んだのは、令和という新しい時代の幕開けとなった昨年。同時に、創業者の崎山清次郎さんから数えて4代目となる崎山和之さん(34)が、父親で現取締役会長の崎山雅由さん(70)から社長職を引き継いだ。従来からの建設事業、住宅事業に遊休地を福祉専門に活用していくため、提案型土地活用事業が新しく加わった。今年7月には橿原市菖蒲町に新築としては初めての障害者グループホームを設計、施工した。障害者グループホームの運営を含めた総合的な障害者福祉事業のサポートの一環。堅実に自然体で築き上げてきた100年の信頼を糧に「今後とも社会貢献に努めたい」と将来を見据える。

Made
in
奈良

橿原市 株式会社 崎山組

創業100年超、 建設事業との3本柱で 「三方よし」の将来見据える



株式会社崎山組 代表取締役社長
崎山 和之さん

日本国内で障害者認定を受けているのは、936万人(全人口の7・4%)。認定を受ける人は増え続け、社会の理解と支援は必須。そんな中、重要で避けられない問題が「親亡き後の支援」。その解決策として生まれたのが共同生活援助である「グループホーム」の存在。

障害者は運営する福祉事業者のサポートを受けながら、グループホームで住み、昼間は就労継続支援施設などの働く場で自立を目指します。ただ、認定を受けている人口に対しての供給率は、わずから5%前後にとどまる。

崎山組の経営理念には「建設を通して社員に幸福を、お客さまに感動を与え、社会に『ない』と困る『会社』であり続けます。」とある。

崎山社長は、この経営理念について「障害者の方のグループホームというのを提供できる会社は少ないです。『箱』としての貢献をしていけば、自然と社会が良くなると思います。社員の幸福と、お客さんに感動を与えることが、障害者の方のグループホームという形になったのです」と、近江商人の「三方よし」に例える。



土地活用事業のグループホーム外観

今も心の中に深く刻み込まれている。

8年前に自社に入社した崎山社長。屋台骨は建設業だとは分かっているものの、ずっと浜松で教えられたことが忘れられず「堅実やからこそ、逆にチャレンジしていこう」と、土地活用事業モデル「なごみデザイン」をブランドとして完成させた。

「土地活用部に関しては、土地をお持ちのお客さまの、よりよい資産形成・運用・課題解決が私どもの使命です。ただ、自分がやりたくないものは、提案したくありません。今の時代どんな提案があるかなと思った時、障害者の方のグループホームであったり、一戸建ての賃貸住宅だったのです」ときっぱり。

さらに「当然、建築させていただく、遊休地の活用にもなります。障害をお持ちで行き先がないという方も多いので、そういった

方々の安心した暮らしにつながります。障害がある方の家族がおっしゃるのは『私たちが亡くなった後、この子をどうしようか』ということ。そういう問題も解決できる。世話人さんがずっといるので、安心して暮らせます」と、「三方よし」の自信がみえる。

一方、「ファミリー向けの低コストで良質の注文住宅」をコンセプトに実現したのが「バンビハイム」(ドイツ語)というブランド。平成25(2013)年にスタートさせた。きっかけは、50年前に祖父の代に建てた家に行き、「この家を建ててくれてありがとう」と言われたこと。「それなら」と一念発起し、「建売住宅」のような「モノ」の販売ではなく、「ライフスタイルの実現」という「コト」の販売へと進化させた。

「これは徹底的に安さを追求して、新婚さんが家を持てるようにしよう。家賃

大変で、ご主人の小遣いが全然ないとか、趣味を我慢するとか、そういうのって、トータルしたら幸せじゃないって思いませんか。趣味とか家族旅行とか、そういうこともキープできる家がいいじゃないですか」と、持論を展開する崎山社長。

崎山組の3本柱の王道を行く建設事業は用地取得から始まり、設計・施工してアフターケアまで。住宅事業、土地活用事業も同様。「ゼネコンも前段階から取っていきたいということですね。技術者がいないから出ないとか、そんなことにはしたくありません。崎山組のアイデンティティーは間違いなく建設事業部なのです」と声を大にする。

土木・建設だけは、関係なしに売り手市場。管理する建設系の技術者は確実に減少しているのが現状。外国人の雇用条件も良



低コストで良質の「バンビハイム」の住宅内部

並みに、持っていただけでいいようにしよう」としました。それでいて住みやすく長持ちする、高品質の家として提供しよう。家を買って資産が減るような家づくりは、もう時代に合わない」とも。

「ローンが大変で、ご主人の小遣いが全然ないとか、趣味を我慢するとか、そういうのって、トータルしたら幸せじゃないって思いませんか。趣味とか家族旅行とか、そういうこともキープできる家がいいじゃないですか」と、持論を展開する崎山社長。

崎山組の3本柱の王道を行く建設事業は用地取得から始まり、設計・施工してアフターケアまで。住宅事業、土地活用事業も同様。「ゼネコンも前段階から取っていきたいということですね。技術者がいないから出ないとか、そんなことにはしたくありません。崎山組のアイデンティティーは間違いなく建設事業部なのです」と声を大にする。

土木・建設だけは、関係なしに売り手市場。管理する建設系の技術者は確実に減少しているのが現状。外国人の雇用条件も良

と多様な分野に仕事を広げ、社員を異動させて潜在能力を引き出すことにも繋がっている崎山組。「社員が成長でき、顧客の信頼をさらに大きくできる。そうしたサイクルの中で雇用、納税、まちづくりに着実に貢献し続けたい」と、目を輝かせる。



○創業＝大正9(1920)年
○代表取締役＝崎山和之
○従業員数＝47人
○資本金＝6000万円
○事業内容＝建設、住宅、土地活用各事業
○本社住所＝橿原市南八木町2-3-35
○電話番号＝0744(22)2353
○ファクス＝0744(24)1206



<https://www.sakiyamagumi.com/>